

## [ウィンナコーヒーとウィンナソーセージの謎]

せっかくウィーンに来たのだから、ぜひ本場で本物のウィンナコーヒーとウィンナソーセージを味わいたい、と思う日本人は多いかも？！  
でも結論から簡単に言うと、日本であまりにもポピュラーな“この”二つは、実は(恐らく)日本にしか存在しない。少なくとも断言できるのは、ウィーンにはない。

まずウィンナソーセージの話から。

日本でとてもポピュラーな、あの小さな形のウィンナソーセージは、ウィーンではどこを探しても絶対に見つからない。ドイツにもない。  
どんな肉屋さんでもスーパーマーケットでも、どの店舗でも見たことがない。いや、もしかしたらどこかのお店には、「カクテルソーセージ」などという名前で売っているかもしれないけれど。

ドイツでウィンナソーセージという名前のソーセージは、ウィーンやオーストリアではなぜか「フランクフルター」と呼ばれ、中身は日本のウィンナソーセージと似てはいるものの、その形は細くて4倍ほど長い。(時には、また地方によってはボックヴルストともいう。)そしてこのソーセージ、ほとんど必ずワンペア、つまり2本が一つになっている。レストランでもお店でも、頼むときはペア単位なのでご注意。

ウィーンのフランクフルター(ソーセージ)は、フランクフルトの肉職人がウィーンへ持って行って伝えたから、という説もあるが、実は地名のフランクフルトではなく、作った肉屋さんの名前がフランクフルトだったから、という話がアチラでの通説である。

そしてちょっと横へそれるが、日本でいうところのフランクフルトソーセージは、やはりフランクフルトには絶対に存在しない。

日本でウィナーソーセージを食し、フランクフルトの近くに2年ほど住み、ウィーンに20年近く居を構えた私は、正直なところ、買い物の際にちょっと混乱気味になった。

ちなみに、お祭りの屋台などでも見かける形の、つまり日本の「フランクフルトソーセージ」は、アチラではなぜか、アメリカカーナーという…。

ややこしくありませんか？！（「アメリカカーナー」というネーミングから考えるに、第二次世界大戦後にドイツ語圏に入ってきたものだろう。）

でもウィンナソーセージがフランクフルターという名前であっても美味しいし、それ以外にも本当に様々な種類の美味しいソーセージがあるので、ぜひぜひ

たくさん試して味わってください！

さて、有名なウィーンのカフェのお話。

コーヒーやお菓子、軽食とともに楽しみなのが、そのカフェの雰囲気だ。古い建築やインテリア、何紙もの新聞がぶら下がっているのも特徴だけれど、伝統的なウィーンのカフェの雰囲気を左右するのは何ととってもウェイター、と言われる。

楽しい、洒落な「おしゃべり」で居心地よくお客様をもてなすのも、彼らの大きな仕事の一つ。

カフェに、ウィンナコーヒーやウィンナソーセージは存在しなくとも、確かに存在するのはいわゆる“ヴィーナーシャルム”、ウィンナチャームだ。お客様はちょっとした会話を彼らと交わしながら、メニューを尋ねたり注文したりする。常連客ともなると、それを楽しみに来る人もいる。

そうそう、ウィンナコーヒーの話だった。

ウィーンのカフェで注文しても絶対に出てはこない、日本の「ウィンナコーヒー」。実は、カフェのコーヒーメニューの一つに似たものはある。日本の喫茶店では、コーヒー豆の種類によってさまざまなコーヒーが提供されるし、「スターバックス」でも結構種類が多くて、私は注文するときに迷うことも多い。

ウィーンでも、それと同じような形と考えれば納得してもらえらるだろうか。大まかにいうと10種類あたりか。

とてもポピュラーなのは、メランジュ。そしてブラウナー。そこにモカ、フェアレンゲルター、アインシュペナー、マリア・テレジア、エスプレッソ・マキアート、フランツィスカーナー。もちろん日本でおなじみのカプチーノもあるし、普通のエスプレッソもある。

この中で日本でイメージするウィンナコーヒーに一番近いのが、きっとアインシュペナーだ。

“通”を気取った6～7人の観光客が、カフェでそれぞれ違うコーヒーを注文した。ウェイターはまじめな顔で一つ一つ書き止めたが、裏に向かって「コーヒー7個だってよ！」と言ったとか言わなかったとか…！

そうそう、オーストリアのカフェではヨーロッパには珍しく、「コップに入ったお水」がコーヒーと一緒に出てくる！ ミネラルウォーターではなく、水道水だ。ウィーンの友人によると、ウィーンの水道水はアルプス山脈からの水が70%以上なので、「ちゃんと美味しいのよ」ということだ。

もう一つ書いておきたいのは、日本でものすごくポピュラーな夏の飲み物、アイスコーヒーのこと。なんとこれはウィーンのカフェメニューにも存在する！ただ中身は言葉通り、アイスクリームとコーヒー、つまり日本のコーヒーフロートだ。そこには生クリームも入っていて、甘くてとてもおいしい。でも、日本の「アイスコーヒー」と思って注文すると、全く違うものが出てくるので、どうぞ覚えておいてください！

今はなくなってしまったが、東京の地下鉄赤坂見附駅に隣接した駅ビルの2階に、「ウィナーカフェ ローゼンハイム」という喫茶店があった。雰囲気がとてもよく、コーヒーも“ウィーン風”のメニューだったような記憶がある。ただ一つ、その前を通るたびに、私はその店名にニヤリとせざるを得なかった。というのは、ローゼンハイムは南ドイツ、バイエルン地方にある街の名で、ミュンヘンからオーストリアのザルツブルクへ行く、ちょうど真ん中くらいにある。でも、この店名をつけた人は、きっとこのドイツ語の意味が好きだったのだろうな。「ローゼンハイム」は日本語だと「バラの郷」。確かに美しい響きだ。

最後に余談で、似たような“ニヤリ”をもう一つ。東京、有楽町のガード下に、よくTVにも出てくる結構有名なビアレストランがある。そのお店の名は「バーデン・バーデン」。前を通ると、ウィンナワルツのメロディが聞こえてくることも多い。実はこれにはちょっとマイッタ。だって、バーデン・バーデンは南ドイツの有名な温泉地の名前だし、レストランで出されるビールはホーフブロイという、ミュンヘンの有名なブランド、そこになんとウィンナワルツ…?!? 寛容な国、日本の面目躍如というところかな！！